

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要領

平成 13 年 11 月 6 日
バリアフリーに関する関係閣僚会議決定
平成 24 年 4 月 20 日
一 部 改 正
平成 29 年 4 月 3 日
一 部 改 正

1. 目的

この表彰は、高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、もって、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的とする。

2. 表彰の対象

バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進に関して、施設の整備、製品の開発、推進・普及のための活動等において、極めて顕著な、又は特に顕著な功績又は功労のあった個人又は団体

3. 表彰者

極めて顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣総理大臣、特に顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣官房長官（ただし、高齢社会対策又は障害者施策を担当する内閣府特命担当大臣が置かれている場合には当該大臣。以下「担当大臣」という。）

4. 表彰の方法

表彰状及び記念品

5. 表彰の時期

表彰は、年一回行う。

6. 表彰の手続

都道府県等から推薦された者のうちから、別に定める選考委員会の意見を聴いて、内閣総理大臣又は担当大臣が被表彰者を決定する。

7. 表彰の事務

表彰に関する事務は、関係各省庁の協力を得て、内閣府において行う。

8. その他

この要領に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、内閣府政策統括官（共生社会政策担当）が定める。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰候補者推薦要領

平成 14 年 1 月 8 日
内閣府政策統括官(総合企画調整担当)決定
平成 15 年 3 月 31 日
一部改正
平成 16 年 3 月 31 日
一部改正
平成 19 年 6 月 25 日
一部改正
平成 20 年 3 月 31 日
一部改正
平成 22 年 4 月 28 日
一部改正

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の推薦の範囲及び手続については、「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要領」(平成 13 年 11 月 6 日バリアフリーに関する関係閣僚会議決定)に定めるところのほか、下記により行う。

記

1. 推薦の範囲

「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要領」2 の「表彰の対象」の規定に該当すると考えられる個人又は団体とし、推薦に際しては、「表彰対象として想定される代表的事例」を参考にすることとする。

2. 推薦の手続

- (1) 各都道府県、指定都市、関係府省は、内閣府政策統括官(共生社会政策担当)からの推薦依頼に基づき、候補者の推薦を行うものとする。推薦件数は、都道府県・指定都市にあっては、個人及び団体を通じて 5 件以内とする。

なお、推薦に当たっては、以下の点を考慮することとする。

- ・都道府県・指定都市が推薦する対象は、原則として、その取組の範囲が当該地域を中心とするものとする。
- ・各府省が推薦する対象は、その取組が各府省の所掌に関するものであって、原則として、その取組の範囲及び効果が複数の都道府県又は全国に及ぶものとする。

- (2) 毎年、推薦依頼を行うに当たり、推薦の期日を定めることとする。
- (3) 推薦に際しては、推薦される者の経歴、表彰の理由となる功績等を具体的に明記する。なお、都道府県知事、指定都市の市長、関係大臣又はこれらに準ずる者等から表彰を受けた者を推薦する場合は、当該表彰の関係規程及び実施状況を添付することとする。

- (4) 叙勲、褒章(紺綬褒章を除く。)又は内閣総理大臣表彰を受賞した個人又は団体は、本表彰の対象とはしない。

また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進又は関連分野において既に大臣表彰を受賞した個人又は団体については、受賞から 3 年を経過し、更に功績が積み重なっていることが明らかである場合を除き、内閣総理大臣表彰のみの候補者として推薦するものとする。

推薦の際の留意事項

1. 候補者の募集

候補者の募集に際しては、庁内各部局やいわゆる出先機関、市町村、関係機関・団体への連絡に加えて、ホームページ上で募集するなど、幅広い周知・照会をお願いいたします。募集に当たって、自薦・他薦は問いませんが、推薦件数は、5件以内としてください。

なお、推薦いただいた事例に関する個人情報については、本表彰以外の目的には使用いたしません。

2. 推薦事例

推薦に際しては、過去の表彰等（6. ホームページ）を御参照ください。

過去に推薦され、活動期間が少ない等の理由で選考から漏れた事例の中にも優れた事例が見受けられるところであり、再度推薦していただいても差し支えありません。実際、その後の活動等により、一度、選考に漏れた事例が表彰されています。また、民間での取組だけではなく、地方公共団体の取組についても表彰の対象となっていますので、積極的な推薦をお願いします。

また、本表彰制度の趣旨から推薦母体（都道府県、指定都市等）そのものを候補者として推薦することは御遠慮ください。なお、地方自治体について、個別の施設等を推薦することは従来どおり問題ありませんが、一般行政施策そのものを功績として推薦することも御遠慮ください。

3. 推薦調書

様式2については、「施設整備」「製品開発」「活動等」の該当するものに○を付けてください。なお、複数の分野にまたがる場合には、○を複数付けてください。その際は、主たる功績と考えられるものに関して、◎も付すこととしてください。また、「推薦対象団体・個人の概要」については「個人」「団体」のうち、それぞれ該当するものに記入してください。

推薦調書は、郵送にて正副2部及びメールにて電子データ（Word ファイル）を提出願います。正副2部及び電子データの提出がない場合は受け付けられませんので注意願います。

4. 利用者等の評価がわかる資料の添付（最大A4判片面10枚（両面20頁）以内）

可能な範囲で利用者等の評価がわかる資料（アンケートや新聞記事等）を簡潔に添付してください。利用者の評価も十分に踏まえ、表彰選考を実施いたします。

なお、規格はA4判で統一するものとし、冊子については受け付けません。冊子を参考資料として添付したい場合は1ページずつコピーして頂きA4判で統一してください。

こちらも3. の推薦調書と同様に正副2部提出願います。

5. 推薦後の手続

推薦いただいた事例は、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰選考委員会の審査を経て、その中から内閣総理大臣又は内閣府特命担当大臣（障害者施策担当）が被表彰者を決定することになっています。表彰の具体的な時期は、平成30年12月

を予定しています。

なお、推薦頂きました団体・個人等の選考内容や結果については、非公表とさせていただきますので、予め承願います。

6. ホームページ

過去の表彰事例等については、内閣府ホームページを参照ください。

<http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/hyousho.html>

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰 の対象として想定される代表的事例

施設の整備・運用

- ・施設・建築物（医療施設、劇場・映画館、集会場・公会堂、展示場、店舗、宿泊施設、福祉施設、体育施設・遊技場、博物館・美術館・図書館、官公庁施設、学校、保育所等の児童福祉施設、集合住宅等）
- ・交通機関（駅等を含む。）・道路・公園
- ・まちづくり

なお、国が直轄事業として整備したものは除く。また、バリアフリー法の対象となる施設・建築物、交通機関・道路・公園については、施設整備及び運営の住民参加プロセスや職員の対応、施設等の利用に関するわかりやすい情報提供等、ソフト面と一体となった総合的な取組を重視する。

製品の開発等

- ・創造的な用具・機器の開発、研究・規格の標準化
- ・ユニバーサルデザインの考え方に基づく誰もが使いやすいものづくり

なお、他者の知的所有権を侵害しないものに限る。また、誰もが使いやすいものづくりについては、開発時及び改良のプロセスにおいて、多様なユーザーの参加が行われ、継続的に評価される仕組みがあることを重視する。

推進・普及のための活動、事業等

- ・高齢者や障害者等の自立と社会参加に寄与する活動、事業等（例えば、ガイドマップの作成、旅行・買物等の外出を介助するボランティア、移送サービスの提供、推進状況の点検、各種情報提供、児童生徒の意識向上活動等）
- ・「子育てバリアフリー」を推進する活動等利用者の自立と社会参加に寄与する活動、事業等
- ・情報の利用におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインを推進する活動、事業等

なお、2年以上の活動の実績があり、現在も活動を継続しているものに限る。

※代表的事例は、表彰の対象として想定されるものの例示であり、ここに掲げた事例以外のものであっても、審査の結果、表彰の対象となり得る。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰(H14～道内表彰者)

(平成30年4月1日現在)

年度	表彰名	推薦	団体名	所在地	功績の概要	備考
29	内閣府 特命担当大臣表彰 優良賞	厚生労働省	石狩市	石狩市	石狩市は、聴覚障害者の暮らしやすいまちを目指し、平成25年に手話条例を制定し、テレビ電話と手話通訳を活用したサービスなどを次々と導入。市民の意識にも変化が表れ、学校や住民からの依頼を基に市が行っている出前手話講座を受講するものも年々増加、石狩消防署では継続的な訓練を実施して緊急時に備え、市職員の8割超が簡単な手話挨拶が可能など、市長を始め市民全体が聴覚障害者や手話への理解と共感が着実に広がっている。	http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h29hyoushou/gaiyou.html
26	内閣府 特命担当大臣表彰 優良賞	北海道	(株)電制	江別市	喉頭癌等の病気で声帯を失い、声を出すことが出来ない人のための発声補助機器である「電気式人工喉頭」の研究開発に産学官で取り組み、国内で初めて製品化。その後も、ユーザーの要望分析結果を大学や公的機関にフィードバックして、新たな産学官の共同研究を推進することにより、抑揚が制御できる人工喉頭の実用化や会話中に両手が自由に使えるハンズフリー型人工喉頭の開発、喉頭摘出以外の発話困難者も幅広く支援することを目指した音声生成アプリ等の新たな技術の創出に繋がっている。	http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h26hyoushou/gaiyou.html
23	内閣府 特命担当大臣表彰 優良賞	北海道	株式会社 らむれす・三角山放送局	札幌市	障害者自らが自分の考えを語り地域に発信する場として開局、障害者がスムーズに使えるユニバーサルデザイン放送機器の開発に取り組むなど社会参加の促進に貢献。また、放送局建物もバリアフリー化し、地域住民との交流も積極的に推進。	http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h23hyoushou/gaiyou.html
22	内閣府 特命担当大臣表彰 優良賞	経済産業省	株式会社 特殊衣料	札幌市	てんかんを抱える子ども、障害者等の頭部を守るヘルメットに代わって、普通の帽子とほぼ外観が同じ頭部保護帽「アボネット」を始め、福祉用具の開発、製造を行い、障害者、高齢者等の日常生活の質の向上に貢献。	http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h22hyoushou/gaiyou.html
20	内閣府 特命担当大臣表彰 奨励賞	北海道	ピュア・フィールド風曜日	弟子屈町	高齢化社会という時代背景の中、「だれでも安心して泊まれるホテルの運営」を今後の北海道観光のあり方を示す方向の一つという考えの下、創業当初から全館ユニバーサルデザインに取り組んだ施設。車椅子利用者でも安心して楽しめる観光ルートや観光スポットの発掘・紹介なども行い、ユニバーサルデザインの観光地づくりに貢献。	http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h20hyoushou/gaiyou.html
15	内閣官房長官表彰	北海道	訓子府町	訓子府町	訓子府町(くんねっぷちょう)は、人口6,400人あまりの町ながら、バリアフリーをまちづくりのコンセプトの一つとして位置づけ、道路整備、商店街近代化、電線類地中化などの事業を総合的に進めるとともに、町並みと一体化した役場庁舎・総合福祉センター「うらら」の整備、町独自の補助による店舗の改築、駅舎(第3セクター鉄道)の整備をバリアフリーに配慮して行うなど、行政と住民が一緒になって、町の一体的なバリアフリー化に努めてきた。また、役場庁舎・総合福祉センターの正面ロビーには、障害者の意見を契機に精神、知的、肢体不自由者合同の共同作業所「喫茶たんぼぼ」を開設し、障害者の自立支援と町民相互の交流を推進している。 ハード整備に当たっては、当初から利用者参加が行われており、車いす使用者や高齢者、町職員による町並みウォッチングや研修会などの機会を通して多くの町民から意見を聞きながら進めた。また、福祉系のコミュニティ活動も活発で、それとも連動しながら、整備面で随時検証が行われた。さらに、町主催のリハビリ教室、いきいきライフ教室の開催など、障害のある人や高齢者の社会参加活動へと広がりを見せている。	http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h15hyoushou/h15jyushou-gai.html
14	内閣官房長官表彰	札幌市	むくどりホーム・ふれあいのかい	札幌市	バリアフリー公園の設置に際して、「障害のある人もない人も 赤ちゃんから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄ることができる 友達づくりの家」というコンセプトで、平成8年より、週2回、公園前の自宅を自由参加・無料開放し、人と人との出会いふれあいの場を提供している。 施設においては、さまざまなボランティアや地域住民と一体となった活動を展開、自由遊び、点字・手話などの講習会等の多彩で楽しい手づくりの行事を催している。障害の有無を超えて、一緒に遊ぶことで、お互いの理解の促進、気軽に助け合う環境づくりに役立っており、遠方からの子どもも多く、障害の種類、程度も多様である。 また地元住民も自らの公園との自覚と誇りが強く、諸行事への参加・協力やゴミ拾い、草刈り、雪かき等の活動も見られる。	http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h14hyoushou/p15.pdf

※内閣府(共生社会政策)のHPから引用